

指導者研修会



講演

昨日の自分より 一歩前へ

～卓球から学んだ挑戦することの大切さ～
2012ロンドン五輪卓球競技・2014世界卓球選手権(東京)
女子団体 銀メダル

講師 **平野 早矢香** 氏



講演

チームマネジメント

～今治からの挑戦～

株式会社今治. 夢スポーツ代表取締役会長
元サッカー日本代表監督

講師 **岡田 武史** 氏



講演

野球を通じて 学んだこと

元広島カープ選手

講師 **山内 泰幸** 氏

期日:令和5年11月11日(土)・令和6年1月13日(土)・2月12日(月・祝) 会場:広島国際会議場



昨日の自分より 一歩前へ

～卓球から学んだ
挑戦することの大切さ～

講師

平野 早矢香

2008年 北京オリンピック出場

2012年 ロンドンオリンピック 団体銀メダル

2014年 世界卓球選手権(東京) 団体銀メダル

2003、2004、2006、2007、2008年
全日本選手権 シングルス優勝

今の選手の素晴らしさ

- ① 時代の最先端技術を小さい頃から研究し、身に着けている
- ② 海外試合の経験値
- ③ 目標と意識の高さ

転機と決断

栃木県のクラブチームから「一度でいいから日本一になりたい」と両親の反対を押し切って、中学校から仙台育英に進学、高校を卒業して、ミキハウスに入社、現役引退など、全て自分の意思で決断

中学・高校での文武両道生活

校長先生「いろいろなスポーツクラブがある中でも、お手本となる生徒であってほしい」
卓球の練習がない日の門限は6時、ポケベル・携帯禁止、男女交際禁止、アイス・炭酸禁止、漫画禁止、部屋には、テレビもクーラーもない、扇風機も使ってはいけない、使えるのは、ドライヤーとCDプレイヤーのみ

大切な言葉

「日々前進」

昨日の自分よりも何か一つでも成長できるように、昨日の自分よりも何か一つでも前進する、上手くなれるように

目標としていたオリンピック

北京オリンピック、手の震えが止まらず、4年に一度のオリンピックの重みを感じた。
ロンドンオリンピック、北京の悔しさを忘れずに、4年間練習に取り組んだ。
大会までにどんな準備ができたか、ということが一番大切な時に自分を支えてくれたと感じた。



チームマネジメント

～今治からの挑戦～

講師

岡田 武史

株式会社今治・夢スポーツ代表取締役会長

1997年～1998年 日本代表監督
FIFA ワールドカップ出場
2007年～2010年 日本代表監督
FIFA ワールドカップ ベスト16

コンサドーレ札幌、横浜F・マリノス、中国杭州绿城監督を歴任
2003年・2004年横浜F・マリノス連続優勝

今治から経営者としての奮闘

企業理念 「次世代のため、物の豊かさより心の豊かさを大切にする社会創りに貢献する」

会社経営とサッカーチームを創ることは一緒!

共通の目的のために、いかに効率的に人の力をまとめるか。個人の成長がチームの成長に繋がる。業務のマネジメントより心のマネジメント、人のマネジメントが大事。

ENJOY 楽しむ

OUR TEAM 自分のチームだと思え

DO YOUR BEST 勝つためにベストを尽くせ

CONCENTRATION 今できることに集中しろ

IMPROVE 現状に満足せず、常に成長していく

COMMUNICATION 存在を認める

勝負の神様は最後に宿る

ワールドカップのカタール大会での「三笥の1ミリ」
「森保監督は運が良かった」という人がたくさんいるが、森保監督が運を掴み損ねないようなことをしてきたから「勝負の神様が最後に宿る」ということ。

代表監督としての覚悟

「俺はここまでやった」「俺は急に名匠にはなれない」「明日、俺ができることは、今持っている自分の力を100%出す以外にない」「命がけでやる」「それでだめだったらしょうがない」「俺の力不足を謝ろう」

今治モデル

日本一質の高いピラミッドを創る
全国から若者、子ども、指導者が集まり、おじいちゃん、おばあちゃんしか居ない所にホームステイさせ、英会話の勉強したり、料理の勉強したり、タブレットで買い物したり、気が付いたら活気に満ちた街にならないだろうか。



野球を通じて 学んだこと

講師 山内 泰幸

元広島東洋カープ選手

1995年～2002年 現役選手

2003年～2005年 三軍投手コーチ

2006年～2009年 二軍投手コーチ

2010年～2014年 一軍投手コーチ

高校野球部監督からの教え

野球が上手ではなかった中学時代、高校に入って「おまえは、内野手は難しいからバッティングピッチャーをやれ」と監督に言われ、ストライクを投げ続けることにより、力がついてきた。また、人間的に「努力をすれば成果が出る」という気づきも与えていただいた。

大学時代の指導者

野球を一生懸命やる人、プレイヤーを諦めて指導者を目指す人、トレーナーを目指す人など、それぞれの居場所を見つけ、野球部員をまとめるマネジメント能力が素晴らしかった。

憧れの広島東洋カープに入団して

1年目14勝新人王、2年目2桁勝利、3年目開幕投手、ここまでは順調なプロ野球生活のスタートでした。5年目オフに肘を手術し、自分のパフォーマンスを出し辛くなった。

プロ野球で学んだこと

スポーツをするには、しっかりと身体を整えることが重要である。現状維持でやっている、相手が成長するので後退してしまう。常に努力を続けていかなければ難しい世界である。

コーチとしてのスタート

自分が現役時代に失敗したので、そういう選手を作りたくない。子どもの頃からプロ野球選手になることが目標であっても、さらに努力を続けなければプロ野球界では活躍できない。選手は、直ぐに上手になりたいと思って、即効性を求めるが、ある程度我慢して、継続する中で技術がついてくる、ということをお伝えしなければならない。